

### 3. 幼稚園・保育所での被害状況（岩手県・宮城県）

東日本大震災では、幼稚園や保育園でも津波被害を受けて犠牲が出た。職員も犠牲となっている。主な施設での犠牲者は次の通り。

県	市町村	施設名	標高	海岸線まで	建物	幼児	職員
岩手県	釜石市	鵜住居幼稚園	4m	約 1.2km	2階建	—	4名
宮城県	石巻市	日和幼稚園	25m	約 900m	建物被害無	5名	—
	山元町	私立ふじ幼稚園	1m	約 1.6km	2階建	8名	1名
	山元町	山元町立東保育所	1m	約 1.5km	1階建	3名	—

【注】標高は地理院地図(電子国土Web)より、海岸までの距離は Google Earth による。

#### 【施設毎の状況】

- 1) 釜石市の「鵜住居幼稚園」は海岸から約 1.2 km の位置にあった。園長と 4 人の先生と園児 2 人が残っていて、近くの鵜住居地区防災センターに走った。防災センターに着いて間もなく冷たい海水が足元から一気に部屋に広がった。一人の先生は九死に一生を得て、園児 2 人も住民が肩車して助かったが、園長と 3 人の先生は犠牲となった。逃げ込んだ防災センターは津波避難所ではなかったらしいが、「防災センター」で被災したことは非常に悔やまれる。
- 2) 石巻市の「日和幼稚園」では、園児を送迎バス 2 台に乗せて出発したが、1 台は海岸方向に進み海に近い場所を走っている時に津波に巻き込まれた。もう 1 台は運転手がラジオで津波到来を知り早めに園に戻ったため被害を免れた。日和幼稚園は高台(標高 25m)にあったため、もし幼稚園に残っていれば津波被害に遭うことはなかっただけに悔やまれる。  
※遺族が「幼稚園に安全配慮義務違反があった」として、園や園長に損害賠償を求めた裁判の一審判決で 2013 年 9 月、園側の過失が認定されている。
- 3) 山元町の「私立ふじ幼稚園」と「町立東保育所」は、いずれも送迎車に乗り込んで避難しようとしたところを津波に巻き込まれてしまった。ともに海岸から 1.5km の場所にあり、過去津波の歴史がない場所であったことだけでもないが、津波からの避難が遅れてしまったことが災いした。  
※ふじ幼稚園、町立東保育所では遺族が施設側を提訴し現在公判が進んでいる。

#### 【考察】

幼稚園・保育所の幼児の被害は、3 件が送迎バス移動中または準備中という同じような状況下で発生した。親元へ早く届けたいという気持ちが被害に繋がってしまったのかもしれない。従って、親に心配をかけないためにも安全な場所に施設を置いてもらいたい。また、幼児を安全な場所に移動させることは大変な手間と時間がかかる。津波が来た場合は、職員も一緒に犠牲になる可能性が高い。従って、被災しない安全な場所に施設を置くことが幼児と職員の命を守る最低の条件となる。